

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

4. 国際連携と国際協力

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-04-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009015

4 国際連携と研究協力

海外研究機関との研究協力協定

国(地域)名 ペルー
相手機関名 国立サン・マルコス大学
協定書等名 国立民族学博物館とペルー・国立サン・マルコス大学との間における考古学調査と学術交流に関する協定
締結日 2005年6月14日
協定終了予定日 2020年5月17日
目的 考古学分野における共同調査の遂行、ならびにそれに基づく学術交流を促進する。
協定内容 パコパンパ考古学プログラム

国(地域)名 台湾
相手機関名 順益台湾原住民博物館
協定書等名 国立民族学博物館と順益台湾原住民博物館との学術協力協定書
締結日 2006年7月1日
協定終了予定日 2016年3月31日
目的 台湾原住民に関する学術調査、研究を推進する。
協定内容 ・台湾原住民族の現代的動態に関わる人類学的、言語学的、歴史学的調査
・国立民族学博物館ならびに他の博物館に収蔵されている台湾原住民族関連の資料に係る調査
・上記に係る報告書ならびに研究誌の発行

国(地域)名 韓国
相手機関名 国立民俗博物館
協定書等名 国立民族学博物館と大韓民国国立民俗博物館との文化交流協定
締結日 2007年7月11日
協定終了予定日 2017年6月14日
目的 学術、文化交流を通して友好関係を強化し、この関係を発展させる。
協定内容 国際共同展示に係る協定
・教職員及び研究者の交流
・共同研究及び研究集会の実施
・博物館の展示及び教育活動に関する協力
・学術的情報及び出版物の交換
・両機関で合意されたその他の事業

国(地域)名 中国
相手機関名 内蒙古大学
協定書等名 国立民族学博物館と中華人民共和国内蒙古大学との学術協力の協定
締結日 2008年9月22日
協定終了予定日 2018年7月24日
目的 相互に理解を深め、両機関の学術協力を通して友好関係を強化する。
協定内容 ・双方の教職員・研究者の交流
・研究プロジェクトの展開
・博物館展示品の展覧及び教育分野における協力活動
・学術研究資料、学術情報及び公開出版物についての交換と相互利用の展開
・その他両機関で合意された分野における協力

国(地域)名 台湾
相手機関名 国立台北芸術大学
協定書等名 国立民族学博物館と台湾国立台北芸術大学との学術協力の協定
締結日 2009年5月15日

協定終了予定日	2019年 5月14日
目的	相互の学術交流と両者の発展を目的とした学術協力関係を築く。
協定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・双方の教職員・研究者の交流 ・研究プロジェクトの展開 ・博物館展示品及び教育分野における協力活動 ・学術研究資料、学術情報及び公開出版物についての交換と相互利用の促進 ・その他両機関で合意された分野における協力
国(地域)名	中国
相手機関名	故宮博物院
協定書等名	国立民族学博物館と中華人民共和国・故宮博物院との研究交流協定
締結日	2009年10月16日
協定終了予定日	2015年 8月27日
目的	相互理解と互酬性の原則に則り、両機関の学術研究交流を強化し、発展させる。
協定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学術研究に関し、両機関が合意する事業の交流・協力
国(地域)名	英国
相手機関名	エジンバラ大学
協定書等名	国立民族学博物館と英国・エジンバラ大学との研究交流協定
締結日	2010年 5月17日
協定終了予定日	2020年 5月16日
目的	相互理解と互酬性の原則に則り、両機関の学術研究交流を強化し、発展させる。
協定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学術研究に関し、両機関が合意する事業の交流・協力
国(地域)名	マダガスカル
相手機関名	アンタナナリヴ大学
協定書等名	国立民族学博物館およびマダガスカル国アンタナナリヴ大学の学術協力に関する協定
締結日	2010年11月22日
協定終了予定日	2016年11月21日
目的	互恵性と平等の理念のもとに、学術分野で相互に利益ある協力活動を進める。
協定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・研究者の交換 ・共同研究プロジェクトの実施運営 ・シンポジウムや講演の開催・学術情報や資料の交換 ・互いに同意したその他の学術協力の推進
国(地域)名	ペルー
相手機関名	教皇庁立ペルーカトリカ大学
協定書等名	国立民族学博物館と教皇庁立ペルーカトリカ大学との間の学術協力の一般協定
締結日	2010年12月 1日
協定終了予定日	2016年11月28日
目的	双方の利益になる協力活動を実現するためのガイドラインを定める。
協定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・共同の研究活動とアウトリーチ活動 ・講演会とシンポジウムの共同策定 ・教員の交流 ・学術的または科学的資料、および双方の利益となる刊行物の交換 ・その他、両者が互いに合意し、双方にとって有益な活動
国(地域)名	ロシア
相手機関名	ロシア民族学博物館
協定書等名	国立民族学博物館とロシア民族学博物館との間の博物館学及び文化研究の分野における学術協力

に関する協定

締結日 2010年12月3日

協定終了予定日 2015年12月2日

目的 博物館学、調査研究、文化財保護の各分野における協力・相互支援関係を樹立する。

協定内容

- ・両博物館が保有する歴史的、文化的財産の保存状態改善を目的としたプロジェクトの支援
- ・両博物館の研究者交流
- ・ロシア民族学博物館が実施するシベリア、中央アジア、極東、北コーカサスでの民族学的フィールドワークへの民博の研究者の参加
- ・両博物館が指名する経理、データベース構築、収集品の考証、資料の分類、保存科学などの諸分野の専門家の交流

国(地域)名 ロシア

相手機関名 ロシア科学アカデミー極東支部極東諸民族歴史学考古学民族学研究所

協定書等名 国立民族学博物館とロシア科学アカデミー極東支部極東諸民族歴史学考古学民族学研究所との間の協定

締結日 2011年6月1日

協定終了予定日 2016年5月31日

目的 考古学、人類学、及び民族学の共同研究を目的とする。

協定内容

2011年から2016年にわたって行われる考古学、人類学、及び民族学の共同研究を本協定の対象とし、下記の事項を実現させる。

- ・考古学、民族学の分野における共同調査
- ・ロシアと日本における共同の研究集会
- ・研究成果の共同出版

国(地域)名 ロシア

相手機関名 ロシア科学アカデミー・ピョートル大帝記念人類学民族学博物館（クンストカメラ）

協定書等名 国立民族学博物館とロシア科学アカデミー・ピョートル大帝記念人類学民族学博物館（クンストカメラ）との間の協力および文化交流に関する協定

締結日 2011年10月21日

協定終了予定日 2016年10月20日

目的 学術、文化の両分野において相互交流および協力関係を発展させる。

協定内容

野外調査および学術・理論的研究、博物館関連活動の分野における交流を以下の項目について実施する。

- ・教職員の交流
- ・野外調査、学術・理論的研究、学術集会の共同実施
- ・展示および教育プロジェクトの共同実施
- ・学術情報および刊行物の交換
- ・両博物館の合意による、その他のあらゆる学術分野の活動

国(地域)名 ベトナム

相手機関名 生態学生物資源研究所

協定書等名 国立民族学博物館とベトナム生態学生物資源研究所の学術協力に関する協定

締結日 2012年3月22日

協定終了予定日 2017年3月21日

目的 相互の理解、利益および協力の原則に基づいて学術研究および交流の強化、発展のために本契約を締結する。

協定内容

共同研究、研修、出版、展示等に関するプロジェクトにおける学術的な研究および交流の促進

国(地域)名 米国

相手機関名 アシウィ・アワン博物館・遺産センター

協定書等名	国立民族学博物館とアシウィ・アワン博物館・遺産センターの学術協力に関する協定
締結日	2012年6月3日
協定終了予定日	2017年6月2日
目的	相互に理解を深め、両機関の学術協力を通して友好関係を強化する。
協定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・双方の教職員・研究者の交流 ・共同研究プロジェクトの展開 ・博物館資料の展覧および教育分野における協力活動 ・学術研究資料、学術情報および公開出版物についての交換と相互利用の展開 ・その他両機関で合意された分野における協力
国(地域)名	フィリピン
相手機関名	フィリピン国立博物館
協定書等名	国立民族学博物館とフィリピン国立博物館の学術協力に関する協定
締結日	2012年7月18日
協定終了予定日	2017年7月17日
目的	相互の理解、利益および協力の原則に基づいて学術協力および交流の強化および発展のために本契約を締結する。
協定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・共同研究、研修、出版、展示等に関するプロジェクトにおける学術的な研究および交流の促進
国(地域)名	中国
相手機関名	中国社会科学院民族学・人類学研究所
協定書等名	国立民族学博物館と中国社会科学院民族学・人類学研究所との学術交流協定
締結日	2012年8月28日
協定終了予定日	2015年8月27日
目的	両機関の学術交流を通して国際的な連携を進めるため、平等互惠と相互尊重の理念のもとに、この協定を締結する。
協定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・研究プロジェクトの展開 ・双方の教員・研究者交流 ・研究資料、学術情報及び公開出版物についての交換と相互利用の展開 ・その他両機関で合意された分野における協力
国(地域)名	フランス
相手機関名	国立パリ・デカルト大学人口開発研究所
協定書等名	国立民族学博物館と国立パリ・デカルト大学・人口開発研究所との学術協力に関する協定
締結日	2012年11月30日
協定終了予定日	2015年11月29日
目的	これまでの建設的な共同研究を評価し、これをさらに強化すべく相互の理解と関心という行動指針に基づき、今後の学術的共同研究を発展させるため、本協定を締結する。
協定内容	両機関は共同研究事業において、学術的交流および協力を推進する。
国(地域)名	マリ
相手機関名	マリ文化省文化財保護局
協定書等名	国立民族学博物館とマリ文化省文化財保護局との学術協定書
締結日	2014年5月7日
協定終了予定日	2018年5月6日
目的	マリにおける文化財の研究、保護及び普及のためのプロジェクトに関する協力活動を推進する。
協定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・マリにおける考古遺跡の保存、保護、研究に関して指導的役割を共同して担う。 ・両機関が実施してきたこれらの考古遺跡に関する研究を継続して行う。

国(地域)名 米国
 相手機関名 北アリゾナ博物館
 協定書等名 国立民族学博物館（日本国 大阪）および北アリゾナ博物館（米国 アリゾナ州 フラッグスタッフ）との学術協力・協働協定書
 締結日 2014年7月4日
 協定終了予定日 2019年7月3日
 目的 学術交流・研究を強化・発展させる。
 協定内容 より一層の交流、情報共有、協力関係、良質な民族誌的記録向上を目的として、博物館やソースコミュニティと共に諸活動を研究・促進するプロジェクトの発展のために協働する。

国(地域)名 台湾
 相手機関名 国立台湾歴史博物館
 協定書等名 国立民族学博物館と国立台湾歴史博物館との間の学術研究交流に関する協定書
 締結日 2015年10月17日
 協定終了予定日 2021年10月16日
 目的 相互に理解と友好を深め、両機関における学術研究交流を促進する。
 協定内容

- ・研究者の交流
- ・共同研究及び研究集会の実施
- ・博物館の展示や教育活動に関する協力
- ・学術情報及び出版物の交換
- ・その他両機関が合意した事項

国(地域)名 米国
 相手機関名 ヴァンダービルト大学
 協定書等名 国立民族学博物館（日本国）とヴァンダービルト大学（アメリカ合衆国）との協定合意書
 締結日 2016年1月15日
 協定終了予定日 2021年1月14日
 目的 両機関が友好と相互平等と利益互惠の原則に基づいて学術的に協力・協同する。
 協定内容

- ・講演会やシンポジウム、研究会
- ・共同研究
- ・文化交流

国(地域)名 中国
 相手機関名 浙江大学
 協定書等名 日本国国立民族学博物館と中華人民共和国浙江大学人類学研究所・図書館との学術交流に関する協定書
 締結日 2016年4月19日
 協定終了予定日 2019年4月18日
 目的 両機関の刊行物を互いに寄贈することにより、民博側は浙江大学に創設された「民博文庫」の充実に努め、浙江大学側は民博図書館における中国（語）関係資料の充実に努める。
 協定内容

- ・研究者などの人材交流
- ・人類学及び人類学資料事業に関する研究
- ・学術出版物の寄贈・交換
- ・その他両機関が必要と認める研究活動の実施

国(地域)名 カナダ
 相手機関名 プリティッシュコロンビア大学人類学博物館（UBC）
 協定書等名 日本・国立民族学博物館とプリティッシュコロンビア大学人類学博物館の学術協力に関する協定書
 締結日 2017年3月9日
 協定終了予定日 2022年3月8日

- 目的 研究交流や人材交流を行い、両博物館における研究活動や博物館活動を促進・活性化させる。
- 協定内容
- ・研究者などの人材交流
 - ・人類学及び人類学資料事業に関する研究
 - ・学術出版物の寄贈

MINPAKU Anthropology Newsletter

Newsletter 42 (June 2016)

Special theme: Research Project 'Anthropology of Heritage: Communities and Materiality in Global Systems'

Athentic Change in the Transmission of Intangible Cultural Heritage ————— Taku Iida

Cultural Diversity and the 2003 ICH Convention ————— Masami Iwasaki-Goodman

Authenticity and Change in the Revitalization and Preservation of Cultural Heritage ——— Christina Kreps

Safeguarding and Promoting Intangible Cultural Heritage in the USA: A Brief Overview of Public Folklore

————— Michelle L. Stefano

Cultural Heritage Practices of Hakka District, China ————— Hironao Kawai

Newsletter 43 (December 2016)

Special theme: Reflection on Research in Africa and Asia

Looking back at my Zhuang Research ————— Shigeyuki Tsukada

From Mali to Tohoku: Frontlines of Fieldwork ————— Shoichiro Takezawa

Discovery of the Royal Cities of Gao, Mali ————— Mamadou Cisse

Master Keaton Takezawa, a Fieldworker in East Japan ————— Hiroyuki Takahashi

みんぱくフェローズ

客員研究員等で国立民族学博物館に在籍した研究者で、帰国後も継続的な関係を維持するためにMINPAKU *Anthropology Newsletter* を送付している研究者、および国立民族学博物館と関連の深い国内外の研究機関で、MINPAKU *Anthropology Newsletter* を送付している機関。

アジア・中東・オセアニア		ヨーロッパ		北米・中南米		アフリカ	
アラブ首長国連邦	2	アイスランド	2	アルゼンチン	1	エジプト	14
アルメニア	5	イタリア	2	米国	158	エチオピア	5
イスラエル	11	英国	48	エクアドル	3	エリトリア	5
インド	13	オーストリア	3	カナダ	18	ガーナ	3
インドネシア	17	オランダ	13	ガイアナ	2	カメルーン	1
オーストラリア	23	キプロス	1	グアテマラ	3	ケニア	3
韓国	40	ギリシャ	1	コロンビア	2	コートジボワール	2
カンボジア		スイス	4	ジャマイカ	3	ザンビア	11
サウジアラビア	4	スウェーデン	12	チリ	1	スーダン	1
サモア	3	スペイン	2	パラグアイ	1	スワジランド	2
シンガポール	5	スロベニア	1	ブラジル	5	タンザニア	2
スリランカ	3	チェコ	3	ペルー	14	ナイジェリア	3
ソロモン諸島	2	デンマーク	3	ボリビア	3	ナミビア	1
タイ	27	ドイツ	31	ホンジュラス	1	ボツワナ	2
台湾	31	ノルウェー	3	メキシコ	5	南アフリカ	5
中国	192	フィンランド	1			マダガスカル	2
トルコ	4	フランス	19			モーリタニア	1
ニュージーランド	5	ブルガリア	3			セーシェル	1
日本	211	ベルギー	3				
ネパール	8	ポーランド	5				
パキスタン	2	ポルトガル	2				
パプアニューギニア	1	マケドニア	1				
パレスチナ	7	ルーマニア	2				
フィジー	8	ロシア	14				
フィリピン	7						
ブータン	3						
ブルネイ	1						
ベトナム	7						
香港	4						
マレーシア	10						
ミャンマー	11						
モンゴル	8						
ヨルダン	6						
ラオス	4						
小計	685	小計	179	小計	220	小計	64
総計							1,148

国際研修博物館学コース

国際協力事業団（JICA）が主宰し、本館が中心となって1994年から10年間実施してきた「博物館技術（収集、保存、展示）コース」は、開発途上国における諸博物館の技術向上と、博物館間の国際的ネットワーク構築に大いに貢献してきた。また、その過程を通じて、本館はじめわが国の博物館関係者も、研修参加者から多くのことを学ぶことができた。

研修コースの設置から10年の節目を迎えた2003年、国際協力事業団は独立行政法人国際協力機構に衣替えし、本館もまた、2004年4月より法人化し、大学共同利用機関法人・人間文化研究機構の1機関となった。この機に当たり、改めて過去10年の成果を点検し、いくつかの点でコースの改変を行い、2004年度からは「博物館学集中コース」として再出発した。

この新たな「博物館学集中コース」は、本館がJICAから全面的な事業委託を受け、滋賀県立琵琶湖博物館と協同で運営することとなった。もとより、研修の実施に際しては、国内の多くの博物館・美術館とその関係者から協力をあおぐことはいうまでもない。本館のもつ国際的ネットワークは、対象国の博物館事情を踏まえた研修実施に不可欠な要因であり、またその先進的な情報・資料管理や博物館運営は、研修に大きな効果をあげている。その一方で、研修員の多くにとって切実な問題である、自らの属するコミュニティの資料を収集・整理し、展示するという課題については、主として海外資料の収集・展示に関わる人文社会系の博物館である本館での研修に限界があることも事実である。そこで、2004年度からの新しいコースでは、自然科学系の博物館としてこの分野の活動で先進的な業績をあげている、琵琶湖博物館と密接に連携することで、より充実した研修を進めている。また、研修プログラムの設定にあたっては、各講義を講師による一方向の教育ではなく、講師と研修員とが自らの経験や知識を共有する議論の場として位置付け、相互に学び合うコースとなるように留意している。

その後、2009年度からは、JICA 集団研修全体の枠組みが大きく変更され、3年間を一区切りとして、その間は研修員受入れ割り当て国を変更しない、という基本原則が定められた。日本の国際協力事業全体を見直す動きの中で、同一国に継続的な協力を行ってその結果が現地に確実に還元される仕組みを作り、それを3年ごとに確認して当該コースを継続すべきかを外部評価の判断にゆだねる、というJICAの方針から、このような枠組みの変更が行われたものである。しかし、本館としては、この枠組みの変更に際し、博物館関係者を3年間にわたり継続して派遣することが困難な国も多いことを勘案して、「大きな需要を持ちながらも博物館人材の少ない国を切り捨てる結果に陥らないこと」を要望してきた。その結果、2012年度以降は、JICAが各国に向けて要望調査を行う際の、割り当て国の固定をやめ、全世界に要望調査を行うことになった。2015年度においては、「博物館学集中コース」を博物館が地域社会に果たす役割により重点を置いたコースへと改組し、合わせて「博物館とコミュニティ開発」コースへと名称変更を行った。

2016年度は、アルメニア、エジプト、イラン、ラオス、メキシコ、ペルー、サモア、ヨルダン、パレスチナ自治政府の9か国・地域から12名の研修員を受け入れ、9月28日から12月16日まで研修を行った。本館と琵琶湖博物館での講義・実習等の実施だけではなく、新潟県中越地震の被災地に設けられた中越メモリアル回廊、東京国立博物館や国立科学博物館、広島平和記念資料館などへの研修旅行も行った。その他、あしや秋祭りのだんじり巡行にも参加するなど、地域社会とのつながりや日本の伝統を間近で体験する機会も本研修に盛り込んだ。

また研修員全員が、自国の博物館の活動や課題を報告し、検討する「公開フォーラム世界の博物館2016」を2016年11月23日に国立民族学博物館で開催した。85名の参加者があり、報告者と活発な意見交換を展開した。また、全期間にわたって日本のさまざまな博物館関係者と直接ふれあい、その一部の現場を訪ねることで、研修員が日本側の経験に学ぶと同時に、日本側も研修員の目を通して、日本の博物館の持っている可能性と課題に気づかされるなど、たがいに経験と知見を分かちあうことができたと考える。

●博物館とコミュニティ開発コース研修員

KOBELYAN Khachatur (コベリアン ハチャトゥール) アルメニア

————— セルゲイ・パラジャーノフ博物館 展示普及部 部長

SOLIMAN Fatma Ahmed (ソリマン ファトマ アハメド) エジプト

————— エジプト考古庁 大エジプト博物館 (GEM) 教育センター・子供博物館 キュレーター／ツタンカーメン王展示担当メンバー

IBRAHIM Mariem Danial-boktor (イブラヒム マリエム ダニエル ボクトール) エジプト

————— エジプト考古庁 コプト博物館 教育部 キュレーター

HASSANZADEH Yousef (ハッサンザデ ユセフ) イラン

————— イラン国立博物館 出版部 部長
 SIHACHAK Vilayvanh (シハチャク ヴィライヴァン) ラオス
 ————— ラオス情報文化観光省 ラオス国立博物館 副館長
 MOSCO JAIMES Alejandra (モスコ ジェイムス アレハンドラ) メキシコ
 ————— 国立保存／修復／博物館学学校 博物館学大学院プログラム 研究教授
 CARRILLO HERRERIAS Magdalena Sofia (カリリョ エレリアス マグダレナ ソフィア) メキシコ
 ————— エクス・テレーザ国立現代美術センター 副センター長
 ARCE TORRES Emma Susana (アチェ トレス エマ スサナ) ペルー
 ————— 文化省 イカ州博物館 館長
 AH KEN ETEUATI Ailini (ア ケン エトゥアティ アイリニ) サモア
 ————— 教育・スポーツ・文化省 博物館上級スタッフ
 ALFARAJAT Rami Mohammed Akeela (アルファラジャト ラミ モハメド アキーラ) ヨルダン
 ————— ベトラ開発観光局 (PDTRA) 観光部 広報担当
 RJOOB Jaber A. J. (ルジューブ ジャベル エイ ジェイ) パレスチナ
 ————— 観光遺跡庁 遺産保護部 調査官 (Al Badd Museum 担当)
 MANSOUR Mohammed Ii (マンスール モハメド) パレスチナ
 ————— 観光遺跡庁 博物館部 キュレーター

国内研究機関等との研究連携、協力の推進

相手機関名	日本文化人類学会
協定名	人間文化研究機構国立民族学博物館と日本文化人類学会との連携に関する協定
締結日	2008年2月27日 (更新) 2011年4月15日
概要	研究連携、研究交流、相互の研究成果の活用を促進し、もって人類社会における学術の発展と普及に寄与する。
終了予定日	なし
相手機関名	日本国際理解教育学会
協定名	人間文化研究機構国立民族学博物館と日本国際理解教育学会との連携に関する協定
締結日	2013年3月28日
概要	研究連携、研究交流、相互の研究成果の活用を促進し、もって人類社会における学術の発展と普及に寄与する。
終了予定日	なし
相手機関名	金沢大学
協定名	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館と国立大学法人金沢大学との連携・協力に関する協定
締結日	2014年3月23日
概要	金沢大学と民族学博物館とのこれまで長年にわたり培ってきた信頼関係と連携・協力の実績を基盤に、より緊密かつ組織的に行う体制強化を図る。
終了予定日	2017年3月31日
相手機関名	立命館大学
協定名	国立民族学博物館と立命館大学との学術交流に関する協定書
締結日	2014年4月10日
概要	食に関する学術研究、その他の諸活動の発展に向けた連携協力を行う。
終了予定日	2019年4月9日
相手機関名	大阪工業大学

協定名	国立民族学博物館と大阪工業大学との学術交流に関する協定書
締結日	2015年3月23日
概要	情報メディア・デジタルコンテンツに関する学術研究、その他の諸活動の発展に向けた連携協力を行う。
終了予定日	2020年3月22日
相手機関名	追手門学院大学
協定名	国立民族学博物館と追手門学院大学との学術交流に関する協定書
締結日	2015年4月22日
概要	地域文化の継承と創造に関する学術研究、その他の諸活動の発展に向けた連携協力をを行う。
終了予定日	2018年4月21日
相手機関名	株式会社 海遊館
協定名	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館と株式会社海遊館との連携・協力に関する協定
締結日	2015年11月19日
概要	産学連携の推進、学術研究の振興、研究成果による社会貢献、その他の諸活動の発展に向けた連携協力をを行う。
終了予定日	2017年3月31日
相手機関名	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
協定名	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館と国立大学法人東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所との連携・協力に関する協定
締結日	2015年11月25日
概要	世界諸地域の言語と文化に関する学術研究、その他の諸活動の発展に向けた連携協力をを行う。
終了予定日	2019年3月31日
相手機関名	神戸大学大学院人文学研究科
協定名	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館と国立大学法人神戸大学大学院人文学研究科との学術交流に関する協定
締結日	2016年7月15日
概要	研究教育のための学術交流を推進する。
終了予定日	2022年3月31日